

名誉会員 瀧一博 博士を偲ぶ

古川 康一

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科

2006年8月13日に瀧一博博士が逝去されました。70歳でした。瀧一博博士（瀧さん）は、電気試験所（電子技術総合研究所を経て現産業技術総合研究所）で、超大型電子計算機、パターン情報処理という2つの大型プロジェクトを実質的にリードされ、その後、世界に冠たる第5世代コンピュータの研究開発プロジェクトのリーダーとして、ご活躍されました。

第5世代コンピュータ研究開発プロジェクトでは、私はその計画時から、瀧さんの下で本格的な研究を行いました。たまたま私がStanford Research Institute（SRI）で埋もれていたPrologのかすれたリスティングを持ち帰り、瀧さんにお見せしました。カンマとピリオドの区別もつかず、しかもコルメラワによるPrologインタプリタなので、フランス語がベースとなっており、判じ物だったのですが、瀧さんはそれを見事動かしてしまいました。思えば、そこから第5世代コンピュータプロジェクトが始まったのかもしれない。瀧さんはその前から、述語論理に基づく推論メカニズムをご自身でも研究されていたと聞いています。

瀧さんが優れた研究者であったことはもちろんですが、それよりも、実は普通の研究者に見られない、歴史観を持って日本の計算機分野をリードした偉大な指導者であったと思います。彼は自己の信念に基づいて、東京大学の故元岡達先生、および通産省を説得して、第5世代コンピュータプロジェクトの立ち上げに成功しました。そのプロジェクトにはそれ以前のプロジェクトには見られない歴史的な意義があります。それは、国際社会におけるイニシアティブです。本プロジェクトのアナウンスは、まさに世界を震撼させました。本プロジェクトを受けて、アメリカではMCC、ヨーロッパではECRCと、それぞれ研究組織が設立されていることがその証拠です。

瀧さんは、組織者としても優れた指導力を発揮しました。第5世代コンピュータプロジェクトを推進するための研究開発機構として設立されたのがICOTですが、ICOT研究者だけでなく、多くのテーマについての研究委員会を作り、その場は研究サロ

ンとして多くの大学研究者の協力を得ることができました。その組織化は国内だけにとどまらず、諸外国の一流の研究者を多数招聘し、彼らの知恵も取り込みました。第5世代コンピュータプロジェクトにとって並行論理型プログラミング言語の開発は最重点の課題でしたが、Ehud Shapiro, Keith Clarkなど世界から人材を集め、その開発を推進しました。

瀧さんは本プロジェクトでは研究は我々に任せてもっぱら研究管理を行っていた、と思われているかもしれませんが、実はそうではありません。ICOTでの研究開発状況を概説しますと、

上田和紀君が基本並行論理型言語GHCを設計し、それに基づいて近山隆君が実用言語KL1およびオペレーティングシステムPIMOSを開発しました。そして、並列推論マシンPIMが故内田俊一君を中心に開発されましたが、そのPIMの上で実行される高度な応用プログラムの開発が望まれていました。瀧さんは、そこでBryによって開発されたボトムアップ定理証明器SATCHMOのGHCによる基本的なコーディング技術を開発したのです。我々はそれを瀧コーディングと呼びました。瀧コーディングは、構文解析を行うErleyのアルゴリズムを応用したのですが、そのGHCによる実現はまさに発想の転換が不可欠な、素晴らしい発明としか言いようの

ないものでした。長谷川隆三君はその後、瀧コーディングをベースにして、PIMの上で走る高速定理証明器MGTPの開発に成功しました。その並列度は、256台のPIMで220倍もの高速化を達成しています。

瀧さんの生涯の研究テーマは、音声認識であったと思います。死の直前に東大病院にお見舞いに伺ったとき、瀧さんは音声研究の論文を勉強されていました。瀧さんの主張は、実験情報学であり、そのメインテーマが音声認識であったのだと思います。瀧さんの頭脳は、死の間際まで活発に働いて、研究を続けていたのだと思います。心からご冥福をお祈りいたします。

（平成18年8月21日）



御 略 歴

昭和 11 年 2 月 16 日 出生. 佐賀県出身
昭和 29 年 3 月 佐賀県立鹿島高等学校卒業
昭和 29 年 4 月 東京大学教養学部理科一類入学
昭和 33 年 3 月 東京大学工学部応用物理学科 (計測) 卒業
昭和 33 年 4 月 通商産業省 工業技術院電気試験所 (現産業技術総合研究所) 入所
電子部回路課
昭和 47 年 4 月 パターン情報部音声認識研究室長
昭和 47 年 7 月 パターン情報部推論機構研究室長 (併任)
昭和 55 年 1 月 パターン情報部長
昭和 57 年 6 月 電子技術総合研究所 (現産業技術総合研究所) 辞職
財団法人新世代コンピュータ技術開発機構理事兼研究所長に就任
常務理事兼研究所長
昭和 59 年 4 月 工学博士 (東京大学)
昭和 61 年 5 月 東京大学先端科学技術センター 客員教授
平成 4 年 4 月 新世代コンピュータ技術開発機構 辞職
平成 5 年 3 月 東京大学工学部電子情報工学科 教授
平成 5 年 4 月 東京大学 辞職
平成 8 年 3 月 慶應義塾大学理工学部管理工学科 教授
平成 8 年 4 月 慶應義塾大学 辞職
平成 12 年 3 月 東京工科大学工学部情報工学科 教授
平成 12 年 4 月 東京工科大学 辞職
平成 17 年 3 月 逝去 (70 歳)

昭和 35 年 3 月 情報処理学会入会
昭和 54 年 5 月～昭和 56 年 5 月 情報処理学会理事
昭和 55 年 5 月～昭和 56 年 5 月 情報規格調査会理事
平成 10 年 5 月 情報処理学会功績賞
平成 15 年 5 月 情報処理学会名誉会員

受賞・栄誉

昭和 43 年 11 月 通商産業省大臣賞 通商産業省工業技術院創立 20 周年記念
「トランジスタ計算機 ETL MarkIV の開発ならびに工業化」(グループ受賞)
昭和 61 年 10 月 イタリア大統領よりメダル, 国際賞
「第五世代コンピュータによって日本の技術を世界に広め, 新しい分野への飛躍に貢献したことにより表彰」
平成 4 年 11 月 (財)国際 AI 財団創立 5 周年記念大会 AI 学術功績賞
「日本の電子計算機開発の黎明期から第五世代コンピュータ研究開発に至る学術功績に対して」
平成 6 年 4 月 科学技術庁長官賞(科学技術功労者)「第五世代コンピュータの研究開発により表彰」
平成 8 年 4 月 紫綬褒章「並列推論コンピュータの研究開発により表彰」
平成 8 年 6 月 人工知能学会業績賞「ロジックプログラミング技術の総合的研究など」
平成 18 年 4 月 瑞宝双光章